

学生の国際交流

和歌山県立医科大学では、学生の国際交流を積極的にすすめています。令和2年は新型コロナウイルス感染拡大のため国際交流は中止となりましたが、これまでの取り組みについてご説明いたします。学生の国際交流は、本学から海外の大学等への学生派遣と、海外学生の本学への受け入れを行っております。

海外派遣には、基礎医学研修と臨床医学研修があります。基礎医学研修は、3年生を対象に夏季休暇期間中（1-2ヶ月間）に海外での基礎医学研究に取り組みます。令和元年は3年生8名がカナダ・トロント大学（5名）、アルバータ大学（1名）、およびシンガポール・ナイアン理工大学（2名）で研究に取り組みました。臨床医学研修では、選択臨床実習期間（4月）に1ヶ月程度、6年生を海外の大学病院に派遣します。令和元年は6年生7名が米国バーモント大学（2名）、ハワイ大学（1名）、チェコ・チャールズ大学2（名）、およびタイ・コンケン大学（2名）で臨床実習に取り組みました。また、毎年、タイコンケン大学での救急国際コンペにも5年生（4-8名）を派遣し、世界中の医学生と競い合っています。

海外派遣した学生については、帰国後、報告会で成果を発表いただいています。そこでは、海外の医学部の実態を肌で感じ、外国の医学部学生と交流し、異文化に触れ、今までの自分からは一回りも二回りも成長した生き生きとした発言を聞くことができます。今後の人生で海外での体験を生かし、更に勉学に励み、素晴らしい医師になっていただけることを期待しています。

海外からの学生受け入れについては、令和元年にはチェコ・チャールズ大学から2名の医学部生、タイ・コンケン大学から5名の医学部生、香港中文大学から3名の医学部生、インドネシアウダヤナ大学から4名の医学部生、米国バーモント大学から2名の医学部生を受け入れました。この他、協定校以外の大学の学生や多数の看護学部生も受け入れました。また、国際交流協定校である山東大学とは、隔年で学生の派遣と受け入れを行っております。人的交流のみならず、毎年、和歌山県立医科大学-山東大学学術シンポジウムを開催し、学術交流も盛んに行なっています。山東大学との定期交流により、本学の学生の視線が海外に向き、視野が広がっていることがわかります。日中の両大学の交流が更に深まることを期待しています。

国際交流協定の締結は、平成29年度までの14大学1病院2機関（山東大学、上海交通大学、香港中文大学、マヒドン大学、コンケン大学、ブラパ大学、チャールズ大学、米国ハワイ大学、韓国延世大学、韓国高麗大学医学部、韓国亜洲大学、インドネシアのウダヤナ大学、ミャンマーヤンゴン第1医科大学、ヤンゴン看護大学、ヤンゴン総合病院、ミャンマー保健省、ベトナム保健省）に、平成30年度にはポルトガルリスボン大学と、令和元年度はインドネシア・アイルランガ大学と協定を結び、着実に増えている状況です。

海外派遣する学生を決定する際には、選抜試験を実施しています。英語、学業成績、面接を総合判定し、すべての項目が一定基準に達している学生の中から、上位の学生を選抜します。英語の評価については、TOEFL iBT受験が必要です（speakingの無いTOEFL ITPではありません）。このため、海外派遣を希望する学生は、TOEFL iBTの受験の準備をして下さい。受験英語が得意だったからといって、TOEFL iBTで高得点が取れるとは限りません。読む、書く、聞く、話す、バランス良く勉強をして下さい。また、面接では、本当に基礎医学の研究に興味があるのか、海外で臨床実習したいと思う強いモチベーションがあるのか等の熱意・意欲も含め評価します。基礎医学研究・臨床に対する熱意・意欲がなく相手先の大学・研究室に迷惑をかけてしまうと、本学と海外の大学との国際交流が続かなくなる可能性もあります。また、時間を割いて教えてもらっているという状況を理解する謙虚な姿勢も重要です。このように語学以外の要素も考慮し選抜を行います。選抜試験の詳細、その他国際交流に関することはどんなことでも、紀三井寺の管理棟1階の国際交流センター事務まで気軽に尋ねにきて下さい。

若い時は、いろいろなことを体験すべきだと思います。人種の違い、宗教の違い、文化の違い、そして世界の医学生の勤勉さを肌で感じてきて下さい。それはきっと貴君貴女を将来素晴らしい医師として育て上げることと確信しています。